

MOVE YOUR HEART!

FC GIFU

FC 岐阜
株式会社岐阜フットボールクラブ
取締役会長 宮田 博之

連載 Vol.

120

2025シーズンの振り返りと来シーズンに向けて

ファン・サポーターの皆さま、ご支援をいただいている企業の皆さま、そして岐阜市をはじめとする42市町村の皆さまには、2025シーズン中も熱いご声援をいただき、心から厚く御礼を申し上げます。

今年こそと迎えた2025シーズンは大島康明監督のもとスタートしました。しかし、6月末の18節終了時点で4勝5分9敗の18位と、降格圏間際まで沈む厳しい状況が続きました。この結果を受け、7月より石丸清隆監督を新たな監督として迎え、残りのシーズンを戦うこととなりました。

石丸監督就任後、当初5試合は勝利が得られませんでした。8月30日(土)のFC琉球戦から勝利を重ね、従来のクラブ記録である4連勝を更新しました。その後の試合でも勢いは止まらず、スタジアムに歓声が沸き上がる中、記録を塗り替える7連勝を達成し、順位を10位まで押し上げました。最下位集団から脱し、降格の危機を乗り越えただけでなく、プレーオフ圏進出も夢ではないと心が沸き立ったものでした。

しかし、その後は上位チームとの対戦で1勝2連敗となり、プレーオフ圏内進出の可能性はなくなりました。それでも、36節のホームで迎えた首位栃木シティとの一戦では、相手が勝利すれば栃木のJ2昇格が決まる状況の中、「我がホームで相手チームの胴上げをさせるな」という思いがチームに宿り、前半の見事なシュートで先制。後半には相手のオウンゴールもあり2対0のシャットアウトゲームを見せてくれました。こうしたゲームを通じて、シーズン後半の7連勝が、チームの実力アップによるものであったことを感じ取っていただけたと思います。

残念ながら最終順位は13位で終了しましたが、石丸監督就任後に加わった6名の新戦力を含む全33選手の活躍によって見違えるように躍動するチームへ成長したことをご覧いただけたのではないのでしょうか。ファンの皆さまにも、「長良川劇場」がどんなクライマックスを迎え、誰がヒーローになるのかといった期待を抱いていただけた試合が増えたことと思います。

後半戦の躍動は、勝敗に関わらず監督・コーチ・選手が生み出す『プロのドラマ』としても試合を楽しんでいただいている皆さまの熱いご声援のおかげと感謝しています。

さて、このチームの進化の背景には、前半戦の苦戦を吹き飛ばす『体と技の強化合宿』に加え、『心の強化』を目的として社外講師の皆さまからいただいた激励や助言のご高話がありました。柴橋正直岐阜市長からは『目標達成に向け、事前に想定課題対応の練習をしておくこと』、藤井浩人美濃加茂市長からは『自分の評価は他者が行うものであり、それらを受け入れながら自分はどうすべきかを冷静に考えて実行できる「メタ認知能力を高めること」の重要性』、高木貴行多治見市長からは『今の瞬間に全身全霊でサッカーに集中する自覚を持つこと、それくらい必死に頑張る欲しい』など、貴重な講話をいただきました。また江崎禎英岐阜県知事からは合気道六段師範の視点で『ここぞという時に力を入れ過ぎるな』という含蓄のある講話と実技披露を頂戴し、監督・コーチ・選手たちに新たな見方や考え方を披歴いただきました。これらの言葉が一人ひとりに気付きや新たな視点をもたらし、反省とチャレンジを促す“新たな化学変化”が生まれたものと、深く感謝しております。

現在、選手たちは新しいシーズンに向けて更なる高みを目指して新たな課題や目標を胸に自主トレーニングに励んでいます。1月には新加入スタッフ、選手を迎えて合宿を行い、2月7日から5月末までの明治安田Jリーグ百年構想リーグが開催され、その後、8月からは2026-27シーズンのリーグ戦が開幕します。

新しいシーズンに向けた期待は、クラブとしても、そして応援いただく皆さまと同様に高まっています。さあ、チームの頑張りを後押しする皆さまの力強いご声援とご支援を、2026年も変わらず賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU